

# 希望はある。温かく人を見守る 自然のまなざしの中に

「絶望はしない。希望はある。それは、温かく人を見守る自然のまなざしの中にある。眼前に広がる鮮やかな麦の緑がその実証だ。それが広大なアフガンのごく一隅であろうと…。」

——中村 哲 (2014年春、『希望の一滴』所収)

## PMS事業の発展と希望

### 2023年度現地事業報告

PMS(ピース・ジャパン・メディカルサービス)総院長・ベシヤワール会会長 村上 優 / PMS支援室

#### はじめに

#### バラコット用水路＝PMS方式の応用編が完成

二〇二三年度の最も大きな事業はバラコット用水路の建設でした。二〇二二年から始まった工事は幾多の課題を乗り越え、今年五月四日に完工式が行われました。

五〇〇〇m級の峰を有するスピンガル山脈北面に広がる谷間に位置するバラコットでは伝統的な生活が営まれていました。しかし地球温暖化による降雪の減少は谷間を流れる溪流の水量を低下させ、普段は涸れ川の流れと湧水でしのいでいました。加えて四〇年に及ぶ戦火は様々な形で村の生活を破壊しました。

中村医師が危惧していたことは、自給自足の生活をしてきたアフガニスタンが干ばつと戦火のために農業生産が低下し、軍事活動と海外援助による莫大な外貨流入によって、国外から食糧を買う、換言すれば現金経済の下で自立力を失ってしまう事態です。「戦争の罪は殺戮だけではない。実質的な

生産よりも現金収入が重視され、消費が徒らに煽られたからで、この十年で貧富の差が著しく拡大した。ある意味では、戦争以上に危機的状況を覚悟せねばならない。外国軍が去っても、アフガン政府は経済支援に頼らざるを得ず、諸外国から容易にコントロールされる危険性を抱えている」(会報二〇号、二〇一四年)。

そうした事態に対して中村医師は、農業の再生を目指しました。それが二〇〇二年に始まった「緑の大地計画」です。PMS方式灌漑事業はクナルル河などの大川から取水する方式と位置付けられています。中村医師の構想では、大川に沿いにある谷間の集落の上流部にも人々が住んでおり、これら小河川にも堰や溜池を作り、伏流水を増やして、カレーズ(地下水路)を復活させることを想定していました。しかしながら、中村医師には、それを具体化する時間がありませんでした。

バラコット事業では、山間の小河川にPMS方式の基本構造である斜め堰や土砂吐き、護岸、漏水を最小化するソイルセメン



バラコット事業完工式後に行われた食事会（2024年5月4日）

ト（土にセメントを混ぜたもの）での水路床、それに貯水池を造りました。PMS方式灌漑の応用編が完成したのです。PMS技術者と日本の技術支援チームが難問について意見交換を繰り返し行なった成果です。ただ、年間雨量が二〇〇mmほどしかない地帯に急にゲリラ豪雨が起きるなど天候異変もありました。基礎的な降雨量データもなく、初めて雨量計を設置して測定を始めるなど、一步一步前進してきたというのが現状です。今後も予測不能の事態に対応する必要があり、未だ通過点でしかないと認識しています。しかしこれは大きな一歩です。この方式が確立すれば、このタイプの堰や用水路を必要とするところは多く、そこに住む

農民たちには朗報です。

ナンガラハル州南部は干ばつに加えて、外国軍による空爆や外国勢力（ISなど）との戦闘が激しかった地域でもあります。タリバン政権となった二〇二一年以降は治安が改善され、農業を基本とした生活を甦らせようとする人々の営みが始まりました。PMSはそのような地域へも手を差し伸べることができます。二〇二四年度から、バラコット東方のナージアンで、小河川からの用水路工事を開始しました。

## 二〇二三年度の概要

### 1. 医療事業（ダラエヌール診療所）

昨年十月以降、隣国では難民強制送還が実施され、診療所受診者が急増している。なかでも皮膚病（疥癬）患者が多く、治療の評判が良かったため患者が更に増え、対応に追われている。

二〇二二年の豪雨で診療所内の井戸水が汚染されたため、二三年度はボーリング井戸への移行や診療所全体の排水システムの整備を行なった。また、検査室、薬局、看護部処置室等において、衛生的に診療がはかどるようにリニューアルした。二〇二三年度の診療内容は表1の通り。

### 2. 灌漑事業

二〇二三年度の主な工事は以下の通り。

表1 '23年度診療数及び検査件数

地域名	ナンガラハル州
施設名	ダラエヌール診療所
外来患者総数	47,464
【内訳】 一般	40,313
ハンセン病	0
てんかん	580
結核	72
マラリア	3,326
外傷治療総数	3,173
入院患者総数	—
検査総数	9,112
【内訳】 血液一般	1,136
尿便	1,631
1,966	
ハンセン病塗沫検査	0
抗酸性桿菌	118
マラリア	3,311
リーシュマニア	510
その他	440

① 斜め堰及び堰板式取水門、用水路四三〇〇m、送水路七〇〇mの完成

② 溜池—余水や洪水、雨水を貯水し有効に利用するため、用水路の末端に二五〇〇m<sup>2</sup>と八万五千m<sup>3</sup>貯水可能な池を造成。自然の丘陵地の凹部を利用し築堤された溜池は、地下水の涵養を促し、効果ははかり知れない。

③ 護岸工事—取水堰の上下流兩岸に1kmの護岸堤構築。

### (2) マルワリード堰・用水路改修計画

本事業は二〇一九年十一月から四年間の工期だったが二四年十二月まで延長。

二三年度は、取水門を二門増設し、それに伴う用水路の拡幅、コンクリート製土砂吐き（可動堰）建設が完了した。

### (3) 維持・管理（保全）事業

二〇二三年度は以下の工事を行なった。

表2 堰の建設及び改修の経過と予定

堰の名称	場所	水路長 (km)	施工・実施期間													維持管理期間			
			'03~'10	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20	'21	'22	'23	'24		
マルワリード	クナール州ジャリババ	27	堰造成					沈砂池改修	主幹排水路建設	取水門改修	再ライニング約1.5km	排水路シギ分岐	A区洪水筋周辺の整備 E区洪水筋拡幅	再ライニング2km	再ライニング3km	取水門増設、コンクリート製土砂吐設置	再ライニング3km		
シェイワ	シェイワ郡カンレイ村	0.5	堰造成													堰上流の堆積土砂除去、堰補修			
カマI	カマ郡・上流域	0.35	堰造成								堰改修	堰補修、対岸護岸一部補修		堰補修、対岸護岸一部補修	堰補修				
カマII	カマ郡・下流域	1.05		堰造成							堰改修			堰補修、対岸護岸一部補修	堰補修				
カシマバード	ベスード郡カシマバード村	0.25			堰造成								堰補修		堰上流の堆積土砂除	河道整備			
タブー	ベスード郡タブー	0.7			堰造成					廃止、ミラーン堰に統合									
カシコート	シェイワ郡カシコート村	2.5			堰造成							護岸一部補修	護岸一部補修		護岸一部補修	護岸一部補修			
ミラーン	ベスード郡ミラーン村	0.3				堰造成						護岸一部補修		堰補修	堰上流の堆積土砂除	護岸一部補修	堰改修		
シギ	シェイワ郡シギ村	0.35				堰造成								河道整備					
マルワリードII (カチャラ)	シェイワ郡カチャラ村	5.5						堰造成	全域送水	排水路橋と植樹、護岸造成					堰補修		護岸一部補修		
バルカシコート	シェイワ郡バルカシコート村	0.3										既存堰改修	測量	堰造成	用水路、沈砂池造成				
バラコット	コット郡バラコット村	5													測量、着工	堰造成			
タンギトクチャー	ベスード郡タンギトクチャー村		河道整備													用水路補修			
モラヘイル	ナージアン郡モラヘイル村	1.75															測量、着工		
FAO 共同事業									ミラーン訓練所建設	PMS方式訓練	訓練・候補地調査	候補地調査	候補地調査	候補地調査					
JICA 共同事業	カマ堰・カシマバード堰・ベスード護岸				カシコート堰		ミラーン堰		カチャラ堰			共同調査・ガイドライン作成							

※2019年度からのマルワリード堰改修計画は工期を2024年12月まで延長。  
 ※シギ、シェイワ堰については河道移動を観察、将来必要ならマルワリード堰流域に統合。  
 ※カチャラ堰(マルワリードII)は2016年10月から2018年9月までJICA共同事業。2018年10月からペシャワール会単独資金による事業。  
 ※ナンガラハル州政府から要請があり、タンギトクチャー用水路の補修工事を行った。

マルワリード用水路I区―谷からの鉄砲水によって用水路内に流入した土砂の除去。  
 ・護岸線の改修―ベスード、カシコート、ミラーン  
 ・堰の改修―カチャラ(マルワリードII)堰の洪水吐き部に深掘れが発生し巨礫を投入。  
 ・堰の改修―ミラーン堰―二〇二二年度の洪水で堰の背面の河道が主流となり、堰全体の背面の洗掘が発生。一年半の観察を経て、二四年一月〜四月に背面の修復工事を実施。  
 (4) ナージアン灌漑設備建設(新規事業)  
 バラコット用水路に続き、スピングル山系を水源とする小河川と湧水からの取水工事、モラヘイル既存用水路の改修工事、溜池の造成、周

辺用水路の漏水防止工事等を二〇二四年四月開始。工期は、二年六ヵ月(二四年四月〜二六年九月完工予定)

3. 農業事業(ガンベリ農場)  
 二〇二三年度は、救荒作物のサツマイモの試験栽培に成功した。数回に分けてツルの植え付けを試みた結果、約五〇〇kg収穫。三月から七月までは収穫でき、美味しく食することが出来た。ツルを約三〇ヵ所に配布し各地で栽培を試みた。詳細は次号の会報で報告予定。

◎ 植樹  
 二〇二三年一月から十二月までの植樹数は三万八千九百四本。〇三年以来の総植樹数は一三〇万六千八百五本となった。植樹の内訳は表3の通り。

4. 現地との交流・その他  
 現地の実情を知るうえでPMS職員との交流は重要である。  
 二一年の政変後は一時的に治安が不安定であったが、PMS活動地では状況が安定してきたため、二二年十二月からPMS支援室及び技術支援チームが定期的に現地への渡航を実施し、現地PMS職員と共に事業の充実を図っている。

二〇二四年度の計画  
 ① ナージアン事業では、取水堰・用水路、貯水池、堤防・護岸工事を続行。

表3 植樹本数(2003年3月から2024年3月まで)

種類	場所	2003~ '10年	'11年	'12年	'13年	'14年	'15年	'16年	'17年	'18年	'19年	'20年	'21年	'22年	'23年	'24年 ~3月	合計
ヤナギ	用水路の両側、河川工事	329,560	73,315	23,650	37,073	18,400	39,650	14,700	30,250	51,750	61,780	118,440	27,200	7,300	10,450	2,150	845,668
クワ	用水路土手	22,758	140	292	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	10	23,260
オリーブ	用水路土手、刈り園	2,840	0	0	1,424	1,275	240	136	0	5	0	0	0	195	0	0	6,115
ユーカリ	砂防林、護岸樹林帯	54,562	22,350	28,196	7,150	7,500	2,611	500	4,659	2,010	2,610	9,105	5,250	11,562	20,520	390	178,975
ピエラ	ガンベリ沙漠	2,065	165	2,083	175	75	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,563
ガズ	砂防林、護岸樹林帯	100,756	9,887	22,317	3,573	780	265	0	0	0	2,000	0	0	0	0	0	139,578
シーシャム	護岸線樹林帯	0	0	0	4,614	1,400	2,000	6,270	516	660	2,350	6,000	2,210	50	3,125	2,895	32,090
ポプラ	ガンベリ沙漠	4,900	10,786	1,850	0	220	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17,756
イトスギ	モスク、学校、公園	60	195	300	0	0	0	110	0	200	130	193	0	0	0	0	1,188
果樹	ガンベリ果樹園	793	0	6,034	5,283	9,185	1,458	1,822	4,348	4,884	509	405	7,678	3,346	1,529	1,436	48,710
その他		132	190	412	144	50	26	0	1,096	597	337	128	204	759	3,300	907	8,282
		518,426	117,028	85,134	59,436	38,885	46,250	23,538	40,869	60,106	69,716	134,271	42,542	23,212	38,984	7,788	1,306,185

## 『中村哲 思索と行動』 上下巻が完成

1984年、中村医師はハンセン病医療や難民医療をペシャワールで開始。そして2000年、アフガニスタンの大干ばつを目の前にして、住民が生き延びるための水事業に取り組みます。

2019年12月の中村医師逝去後は、その精神を継承すべく、現地とのより密な協働作業が始まりました。その後、日本からもアフガンを訪れることができるようになり、顔を合わせ、知恵を出し合い、現場を見て議論することが普通になっています。

危機に直面した時、道を照らしていたのは、中村医師の思索と行動です。40年近くに及ぶ中村医師の精神と行動の記録である『中村哲 思索と行動』上下巻が完成しました。知恵と志と、この世界をどう生きるかの示唆に溢れています。ご一読くださいますよう、お願い申し上げます。

村上 優

## おわりに

二〇二四年度は、ナージアンの水路工事が本格化します。すでにバラコットでは、水路が潤しはじめた地に麦が青々と生長し、大地の変化を予感させます。

中村医師が生前に予定したマルワリード

- ②マルワリードI改修工事では、今年十二月の工期終了までに水路面のライニング(覆工)三kmを終える。
- ③保全計画は、流域住民への技術伝達の一環として継続され、住民による維持管理を目指す。
- ④PMS灌漑方式の普及計画として、FAO(国連食糧農業機関)―PMSの関連事業が再開の予定。一方、PMS独自の水路建設では、通常通り地域住民を作業員として雇用し、彼らの手による維持管理を目指してトレーニングを実施する。

堰改修工事は完了し、マルワリードIIカシコート連続堰の風景の一部となりました。ガンベリ農園のサツマイモの苗も順調です。ハンセン病診療も州政府との協議で、診療所の設置場所選びが始まっています。

アフガニスタンはまだ経済制裁の中であり、ヘラート州の大地震や、干ばつと洪水も繰り返され、多数の死者が出る惨事も起きています。しかし、ナンガラハル州の一部だけではありませんが、面として広がる潤いと復興と平和があります。国連機関であるFAOとのPMS方式普及事業も前進の機運がみられます。

世界を見渡すと暴力の応酬がそこかしこに広がっていますが、ここでは貧しいながらも生活の喜びと平和が甦っています。これを希望と言わず、なにかが希望でしょうか。支援していただく皆様にお届けできるのは、この事実です。今後のご支援を切にお願いいたします。